

全国協議会 ニュース

2026年4月1日発行 第404号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

東京マラソン 2026 チャリティ

全国協議会は3月1日(日)開催の東京マラソン 2026 チャリティの寄付先団体として参加し、チャリティランナーの皆様へ感謝を伝えました。また大会前3日間の東京マラソンEXPO 2026で骨髄バンクの啓発も行いました。

東京マラソン EXPO 2026 2/26(木)～2/28(土)

東京マラソン EXPO 2026(東京ビッグサイト)にてブースを設置し、チャリティランナーの皆様へオリジナルプレゼントをお渡しし、ご支援への感謝を直接お伝えしました。

チャリティランナーには、元患者さんやご家族、医療関係者など、血液疾患に関わりの深い方々も多く、走ることを通じて患者さんを支えたいという思いが強く感じられました。

一般来場者からも「ドナー登録やスワブについて知りたい」「ドナー登録は卒業したが若い世代に伝えたい」といった声が寄せられました。

沿道応援に参加して



3月1日(日)、東京都心を埋め尽くした東京マラソンチャリティ関係者の皆様お疲れ様でした。私達は、千葉、東京、神奈川そして埼玉から総勢30人が沿道に駆け付け、52人のチャリティランナーの皆様を、それぞれの場所(日本橋・水天宮・両国・東日本橋他)で応援していました。日中は春らしい陽気になり最高の天候でした。たくさん外国人ランナーが参加している東京マラソンチャリティは、沿道の私達にも又「明日から頑張ろう!」そんな希望と元気を一緒に運んでくれる大会

でもありました。来年も又東京でお会いしましょう!

(埼玉骨髄バンク推進連絡会 松井 進)

思いを届けた沿道の応援



東京の会は10人が参加、神奈川の会からも3人が合流し、都営浅草線東日本橋駅付近で活動しました。スマホのアプリ「応援navi」にチャリティランナーのビブナンバーを手分けして入力し、マップ上で動くランナーの位置を確認しながら、大きな声で名前を呼んで応援しました。

ナビの精度はアバウトで大勢の中でランナーを見分けるのは困難でしたが、あちらから気づいて手を振ったり「ありがとう」と言ってくれたりして、とても嬉しかったです。またノボリに加えて今回初めて手作りの英語のメッセージボードを掲げたところ、サムアップしてくれる海外ランナーもいて、効果があったと感じました。来年もさらに工夫して応援したいと思います。

(骨髄バンクを支援する東京の会 二見茂男)

走る力と応援の思いがひとつになる

全国協議会では、今年も大会当日に個別ラウンジを用意しました。ラウンジにはチャリティランナーの皆様だけでなく、ご家族にもお越しいただき、レース後の時間をともに過ごしながらか交流を深める温かな場となりました。

この取り組みは今年で3年目となります。回を重ねるごとに多くの出会いが生まれ、特に海外から参加されたチャリティランナーとの交流はとても印象的でした。言葉は十分に通じない場面もありましたが、骨髄移植を必要とする患者さんへの思いや、闘病中の方々を応援したいという気持ちはしっかりと通じ合い、国や言葉を越えて心がつながる瞬間を感じることができました。その光景に触れるたび、私たちの活動の意義をあらためて実感し、胸が熱くなる思いがしました。

今回のチャリティを通じて寄せられた思いや応援は、きっと多くの患者さんやご家族の大きな力になるはずです。ご参加いただいたチャリティランナーの皆様、ご家族の皆様、そして応援して下さったすべての方々に心より感謝申し上げます。今後もこの輪を広げながら、骨髄バンクへの理解と患者支援の輪を広げていけるよう努めてまいります。

(実行委員長 山口明大)

骨髄バンクとさい帯血バンクの最新情報

● THE BANK NOW (速報値) ●

骨髄バンク

■ 日本骨髄バンクの現状(2026年2月末現在)

| | 1月 | 2月 | 現在数 | 累計数 | |
|---------|--------|-------|---------|-----------|--------|
| ドナー登録者数 | 2,121 | 1,716 | 564,951 | 1,023,664 | |
| 患者登録者数 | 184 | 165 | 1,707 | 73,146 | |
| 採取数 | 骨髄 | 40 | 41 | — | 27,604 |
| | 末梢血幹細胞 | 37 | 39 | — | 2,846 |
| | 合計 | 77 | 80 | — | 30,450 |

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■ 2月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/350人、献血併行型集団登録会/1,337人、集団登録会/8人、その他/21人

■ 2月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,560人/20代 101,265人/30代 137,515人
40代 205,909人/50代 115,702人

■ 2月の20歳未満の登録者167人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

(MONTHLY JMDP(3月15日発行)より抜粋)

さい帯血バンク

■ さい帯血保存公開本数 10,759本

(2026年2月末現在、国内6バンクの合計)

■ 2月の移植件数 112件 (累計26,680件)

(日本赤十字社 骨髄バンク・さい帯血バンク ポータルサイトより抜粋)

日本造血・免疫細胞療法学会総会開催



2月27日(金)~3月1日(日)の3日間の日程で、東京国際フォーラム

(千代田区)において、日本造血・免疫細胞療法学会総会が開催されました。

今回は全国協議会としてはポスター発表や口演は無く、特設展示ブースにおいて患者支援基金のリーフレット類や当協議会発行の書籍『白血病と言われたら』の展示を行い、ティッシュ入りリーフレットの配布を行いました。

展示ブースで足を止めてくれる医療関係者の方も多く、多くのドクターを中

心とした医療関係の方が骨髓バンクに期待をされている事が感じられました。

今回も2日目~3日目は場内に14の会場が設けられ、それぞれ1日5回の発表やセミナー、シンポジウム等の口演が行われました。

それぞれの会場では口演や質疑応答などが活発に行われていました。

これだけ大勢の医療関係者の方が移植医療やCAR-T療法等に真摯に取り組まれている事に対し、嬉しく思いました。(全国協議会理事 館野守男)

特別公開講座開催へのみちのり

思い返せば、去年の10月に第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会会長の福田隆浩先生(国立がん研究センター中央病院)から、古賀真美さん(NPO法人がんネットジャパン常務理事)と私への一通のメールが始まりでした。

【来年の2月末に開催される日本造血・免疫細胞療法学会総会の市民公開講座を、女性移植患者の妊孕性温存をテーマにできないかと考えている。一度、相談させてほしい。大谷さんが移植後に出産された患者さんを多数ご存知で、大会でお子さんと一緒に参加された方もおられたことを覚えている。】

といった主旨の内容でした。

私は飛び上がらなばかりに喜びました。1988年の私の治療時には考えられなかった妊孕性温存問題。2017年に日本癌治療学会でのガイドラインにおいて「医療者は患者さんに、妊孕性温存についての十分な説明をしなければならぬ」と発せられてからは少しずつヤマは動いてきましたが、今年の学会での公開講座のメインテーマになるとは。。。ここから古賀さんを中心

に、企画が進んでいきました。

絶対に外せないのが①血液内科医と生殖医療医の講演とディスカッション②大勢の血液内科医に参加していただくためのセンセーショナルな医師向けのタイトル。そして「特別」公開講座に。

①については、ご登壇いただける血液内科の先生も生殖医療の先生もご快諾いただき、感謝でした。②では、『もし、妊孕性温存のことを聞かれたら、あなたならどう答えますか?』あなた=血液内科医を想定したこのタイトル、「とても上から目線でごめんなさい」と思いましたが、ありがたいことに打ち合わせの段階で、血液内科の先生方のご快諾をいただきました。おかげ様で立ち見も出る満席状況。フロアからの質問も活発でした。

そして、私は「実際に未受精子保存をされたあとに、骨髓バンクを介しての移植を受け、赤ちゃんを授かった方に登壇していただけないかしら」と密かに妄想しておりました。

その妄想が現実のものになりそう、との連絡があり、まずは、オンライン

絵本。私は、新幹線そのもののおもちゃを選択します。



当日、男の子と会った瞬間は人見知り

が絶賛発令中でしたが、絵本を受け取った瞬間に私たちと仲良くなります。そして、登壇時に私がすかさず新幹線そのものを渡して、心をわしづかみ? ママが講演している間、私の手をしっかり握り、大勢の先生方が座っている席のあいだを縫ってあちこちへ。そのたびに、先生方が手を振ってくださる。血液内科の先生の胸にも「妊孕性温存は命を助けることとともにとても大事な事」と思っただけだった一コマだったと思います。

公開講座終了後、血液内科の先生方から、「生殖医療の先生からの講義を受けることはとても大切なことと改めて思いました」と言っていました。

私が38年前に、血液内科の先生に「どうして、婦人科や泌尿器科の先生と連携をしていただけなのですか」と聞いたとき、「大学病院はそれぞれの専門分野が開業しているようなものだからねえ」と言われ、悲しく思ったあのときの気持ちが吹っ飛びました。この38年の間にさまざまなご努力を続けてきてくださって、患者さんの命も人生も救ってくださる医療スタッフの方々に心からの敬意と感謝を表し、本公開講座がこれからの患者さんの未来、そして、笑顔につながることを願っています。

(全国協議会副会長 大谷貴子)

Public lecture poster for March 1st at the Tokyo International Forum. Title: 'How to talk to patients about pregnancy preservation after transplantation'. Includes speaker information and registration details.

Public lecture poster for March 1st at the Tokyo International Forum. Title: 'How to talk to patients about pregnancy preservation after transplantation'. Includes speaker information and registration details.

で患者さんに挨拶をさせていただきました。その中で一緒にママと登壇してもらえそうな2歳の男の子の“マイブーム”を教えてくださいました。「息子のマイブームは新幹線」と知った私と古賀さんは、新幹線グッズを買いに走ります。古賀さんは新幹線のみならず電車の

AYAweek2026大交流会



AYA世代のがん患者と家族、医療者などが参加する大交流会が、3月7日(土)、3つの会場(東京、大阪、福岡)とオンラインを結んで開催されました。

参加者は全国から177人で、このうち福岡会場には家族や医療関係者を含む34人が集まりました。会場内にはアピアランスケア*の企業ブースがあり、ロビーには病院や企業などの団体による応援フラッグが飾られました。

第1部のトークリレーでは、小児がん、希少がん経験者の体験談ときょうだい児の発表があり、第2部では各会

場とオンライン参加者がグループに分かれてそれぞれの想いを語り合いました。経験者は見た目に分からないけれど治療の後遺症や晩期合併症を抱えていること、病気のことを言わずに就職したこと、上司や周りに病歴を話すことと理解を得られたことなど、経験者ならではの心の傷みや克服に向けての一步を共有していました。

初めての参加者は、「ここへ来て一人じゃないと思えた」「悩みを話し気持ち共有できて良かった」と感想を述べていました。また「発信することが大切。このようなイベントを通してもっと社会に理解を訴えていきたい」と、参加者の想いが一つになり大交流会は締めくくられました。

(全国協議会理事 内藤真澄)

*アピアランスケア：がん治療の副作用による外見の変化に対する、医学的・整容的・心理的な支援。

木村晋也先生「断薬への道」連載開始します

慢性骨髄性白血病(CML)の治療法改善をライフワークとしている木村晋也先生にCML患者さんの治療薬の断薬について、来月号(第405号)から3回にわたりご寄稿いただきます。今号では木村先生のプロフィールを紹介합니다。



木村晋也 先生

佐賀大学医学部内科科学講座 血液・呼吸器・腫瘍内科 教授

1962年京都市生まれ。1986年自治医科大学卒業。京都府立医科大学第一内科で初期研修後、へき地勤務8年間。1996年医学博士。自治医大の義務年終了後オーストラリアWEHI研究所、ドイツFrankfurt大学での留学を経て、2002年京都大学輸血細胞治療部助手。2009年に佐賀大学医学部血液・呼吸器・腫瘍内科教授。2016年に佐賀大学医学部創薬科学講座教授(併任)。佐賀大学では3期連続(9年間)卓越研究者。

学会活動：日本がん分子標的治療学会(理事長)、日本血液学会(理事)、日本腫瘍循環器病学会(理事)、日本学術会議連携会員など。

主な受賞：2012年バイオビジネスアワード、2018年鶴尾隆賞、2023年日本白血病基金TSアルフレッサ賞、2025年日本血液学会賞、保健文化賞(厚生労働大臣賞)。

趣味：サックス、釣り(2025年6月に非公認だが日本記録のシロカジキを釣った)。2023年にNHKのど自慢大会出場。(編集部注：全国協議会発行「白血病と言われたら」でも分子標的療法の解説をいただいています。上巻159頁)



基金給付を受けた方からのメッセージ

佐藤さち子記念 造血細胞移植患者支援基金

この度は大変お世話になりました。治療のため家計を支える収入が途絶え、一時は治療を断念せざるを得ない状況の中、佐藤さち子基金の温かいご支援により骨髄移植を受けることができました。まだまだ闘病生活は続いています。一日も早く仕事復帰し頑張っています。ほんとうにありがとうございました。

(近畿地方在住 患者さん)

志村大輔基金 (分子標的薬支援)

この度、貴基金より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。31歳で慢性骨髄性白血病と診断され、現在1年ほど治療を続けております。数年前の療養に続き再び病が見つかった際は、精神的・経済的に大きな不安を感じておりました。そのような折、担当医やソーシャルワーカーの方々のご協力により貴基金の給付を受けることができ、大変助けられました。深く感謝申し上げます。おかげさまで現在、

治療は順調に経過しており、このご支援を力に生活再建に取り組み、いつの日か、今度は私が寄付という形で恩返しできるように、日々精進していく所存です。貴基金の皆様のご厚意に重ねて御礼申し上げます。

(中国地方の患者さん)

「2026 全国骨髄バンク ボランティアの集い in 東京」開催決定

『いのちのバトンリレー～白血病からの生還と命をつなぐ医療～』と題して、移植を受け病気を克服、さらにアスリートとして活躍しているの方々をお呼びし、病気を乗り越えスポーツを続けている体験談を語っていただきます。また、輸血を含む在宅地域医療について現場の医師からの講演も予定しています。是非ご参加ください。

日時：2026年6月6日(土)
12時30分開会

場所：東京都庁「都民ホール」
(都庁議会棟1階)

登壇者：村崎誠さん(世界移植者スポーツ大会2025パドミントン金メダリスト)

松岡一成さん(3人制プロバスケットボール選手)

大橋晃太さん(トータス往診クリニック院長)

大谷貴子さん(パネルディスカッション進行役)

入場無料・申込不要



東京

3.11 を忘れない！ 防災フェア開催



今年も、3月8日（日）に都庁となりの新宿中央公園内水の広場前で「3.11 を忘れない！ 防災フェア&チャリティーイベント」が、西新宿角三町会主催、東京新都心ライオンズクラブの共催で開催されました。

震災をはじめとする甚大災害への備えを常に忘れないための災害復興支援イベントで、2011年東日本大震災の翌年から毎年開催し今年で15回目となりました。起震車や防災体験車、消防車、はしご車など子ども向けのブースもあり、煙から逃げる方法や消火器の使い方などを実際に体験できます。子ども用消防服を着られるコーナーもあり、子ども連れのご家族の行列ができていました。また都内各所のライオンズクラブが工夫を凝らしたブースを出店し、豚汁や焼きそばなど良い香りが漂っていました。東京の会でもブースを借りて、菓子パンとおめんと販売し、ティッシュを配り、募金箱にも寄付を募って、活動資金を確保する活動をおこないました。

また会場内の舞台では、町内会クラブや近隣の学校の生徒から歌や演奏やダンスが順番に披露され、西新宿小学校の和太鼓演奏は迫力のある音を響か

せていました。

例年どおり献血バス2台が配車され、東京の会と神奈川の会から説明員6人が献血バス入口にスタンバイしました。この会場では、主催者メンバーが献血の参加者集約をする事前予約制を取り入れているため、献血で集まる数が読めるのと、時間予約なので待たずにスムーズに献血の流れができました。この事前予約制は献血を集めるためには大変有効な手段なので、今後他のライオンズクラブにも広げる事を検討しています。献血受付は106人となりました。骨髄バンクへのドナー登録は長く継続している登録会なので、すでにドナー登録している方が大変多く、新しい若い方への呼び掛けが課題です。ドナー登録は受付25人、登録13人、既登録が11人という結果でした。

(骨髄バンクを支援する東京の会 若木 換)

北海道

チャリティー 「春待ちコンサート」開催

北海道骨髄バンク推進協会は、全国協議会との共催で恒例の骨髄バンクチャリティー春待ちコンサートを3月13日（金）に札幌コンサートホールKitaraで開催しました。

24回目となった今回は、札幌交響楽団コンサートマスターの田島高宏さんとピアニストの田島ゆみさんご夫妻が、2023年3月以来3年振り2回目のご出演です。

当夜はお二人の息の合った美しい演奏でホールは心温まる雰囲気であふれ、患者さんにとって長い冬の先に希望の春が来ることを願うにふさわしいコンサートになりました。

曲間では田島高宏さんから、若年層のドナー登録やドナー休暇制度の重要性についてお話をいただきました。また、ロビーでは「いのちの輝き展」も併催し、たくさんの方々が熱心にご覧になり思いをはせていらっしゃいました。終演後の募金箱は、思いのこもった募金でいっぱいになりました。

このコンサートは、患者支援基金への寄付やボランティア活動の財源獲得

を大きな目的としており、今回もその収益を複数の患者支援基金への寄付と活動の財源に充てることができました。

早くボランティア出演をお引き受けくださった田島ご夫妻、ご来場くださったお客様、開催に向けてご協力いただいたすべてのみなさまに心から感謝申し上げます。

札幌は大雪に見舞われた今冬がうそ



のように街中の雪がほとんど消え、いつもより早い春の訪れを予感させています。4月下旬には「ありがとう桜」が咲く春がやって来ます。

(北海道骨髄バンク推進協会)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●2月21日～3月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

| | | |
|-----------------------------|----------------------------|--------------------------|
| ●一般 | 匿名 現金 13,000円 | イオン九州(株)イオン都城店 現金 5,745円 |
| 藤波 敬子 現金 10,000円 | ●志村大輔患者支援基金 | 株式会社カンセキ 西川田店 現金 6,086円 |
| 一般社団法人セカンドライフ支援協会 | 高木 敏明 現金 10,000円 | 土岐商工会議所 現金 1,241円 |
| 増田正明 現金 10,000円 | ●募金箱 | あんがいおまろ一座 現金 2,892円 |
| 骨髄バンクを支援する東京の会 | 株式会社 クスリのアオキ 現金 1,647,381円 | 設計工房 夢家 現金 3,000円 |
| 匿名 現金 10,000円 | 株式会社 マルト商事 現金 41,780円 | ●つながる募金 |
| 匿名 現金 1,000円 | 株式会社 ナルックス 現金 29,417円 | 現金 5,200円 |
| 匿名 切手 22,180円 | 株式会社 フクヤ 現金 28,068円 | ●キモチと。 |
| ●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金 | 株式会社 AR. サクライ 現金 12,618円 | 現金 37,696円 |
| 樋田 真由美 現金 350,000円 | | ●マンスリーサポート |
| ブルデンシャル生命保険株式会社 現金 177,000円 | | 現金 74,000円 |
| 万々 宏 現金 100,000円 | | |
| 竹田 幸子 現金 30,000円 | | |

活動資金の支援をお願いします

| | | | |
|------|-------------------------|--------|---------------|
| 銀行口座 | 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 | 郵便振替口座 | 00150-4-15754 |
|------|-------------------------|--------|---------------|

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。